

東北地方 1か月予報

(9月2日から10月1日までの天候見通し)

平成18年9月1日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

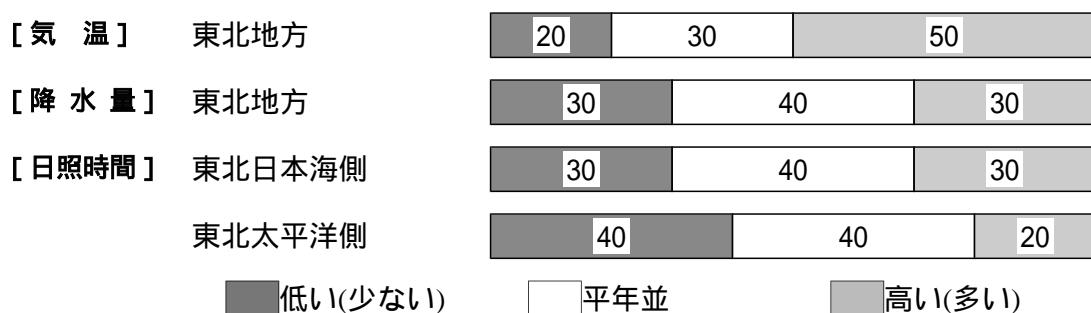
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変化し、東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

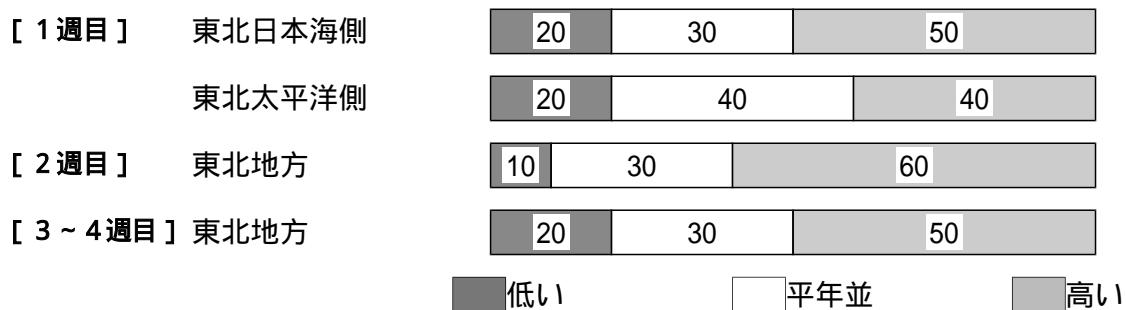
向こう1か月の平均気温は東北地方で高い、降水量は東北地方で平年並、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は東北日本海側で高い、東北太平洋側で平年並か高い、2週目、3~4週目は東北地方で共に高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 9月 2日(土) ~ 10月 1日(日)

1週目 : 9月 2日(土) ~ 9月 8日(金)

2週目 : 9月 9日(土) ~ 9月 15日(金)

3~4週目 : 9月 16日(土) ~ 9月 29日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は9月8日

3か月予報: 9月25日(月) 14時

寒候期予報: 9月25日(月) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	18.7	121.0	160.9	20.9	19.5	17.5
深浦	18.9	174.1	155.8	21.0	19.6	17.9
むつ	17.8	173.7	145.3	19.7	18.5	16.8
八戸	18.4	165.8	144.5	20.4	19.2	17.4
秋田	19.7	177.9	156.2	22.0	20.5	18.5
盛岡	18.1	159.5	125.9	20.5	19.0	16.9
大船渡	19.1	223.6	121.2	21.1	19.9	18.1
宮古	18.4	230.2	124.7	20.3	19.1	17.4
仙台	20.2	216.7	120.7	22.2	20.9	19.1
石巻	19.7	165.3	133.8	21.8	20.5	18.7
山形	19.5	136.7	127.2	22.0	20.4	18.2
新庄	18.8	155.3	113.6	21.3	19.8	17.6
酒田	20.3	185.3	150.3	22.5	21.1	19.2
福島	20.6	170.7	114.6	23.0	21.4	19.4
若松	19.7	134.1	125.5	22.3	20.7	18.4
白河	18.9	219.0	112.4	21.3	19.7	17.7
小名浜	21.1	205.9	136.1	22.9	21.9	20.1

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ~ +0.3	85 ~ 113	94 ~ 108
東北日本海側	-0.6 ~ +0.3	87 ~ 112	95 ~ 108
東北太平洋側	-0.5 ~ +0.3	86 ~ 113	92 ~ 110

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8 ~ +0.7	-0.7 ~ +0.5	-0.5 ~ +0.3
東北日本海側	-0.8 ~ +0.7	-0.8 ~ +0.6	-0.6 ~ +0.2
東北太平洋側	-0.7 ~ +0.7	-0.6 ~ +0.5	-0.5 ~ +0.3

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年9月1日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(9月2日～10月1日)：

天気は数日の周期で変化し、東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

1週目(9月2日～9月8日)：

期間の前半は高気圧に覆われて、概ね晴れるでしょう。期間の後半は、気圧の谷や湿った気流の影響で曇りや雨の見込みです。

平均気温は東北日本海側は高く、東北太平洋側は平年並か高いでしょう。

2週目(9月9日～9月15日)：

天気は数日の周期で変化し、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3～4週目(9月16日～9月29日)：

天気は数日の周期で変化し、東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

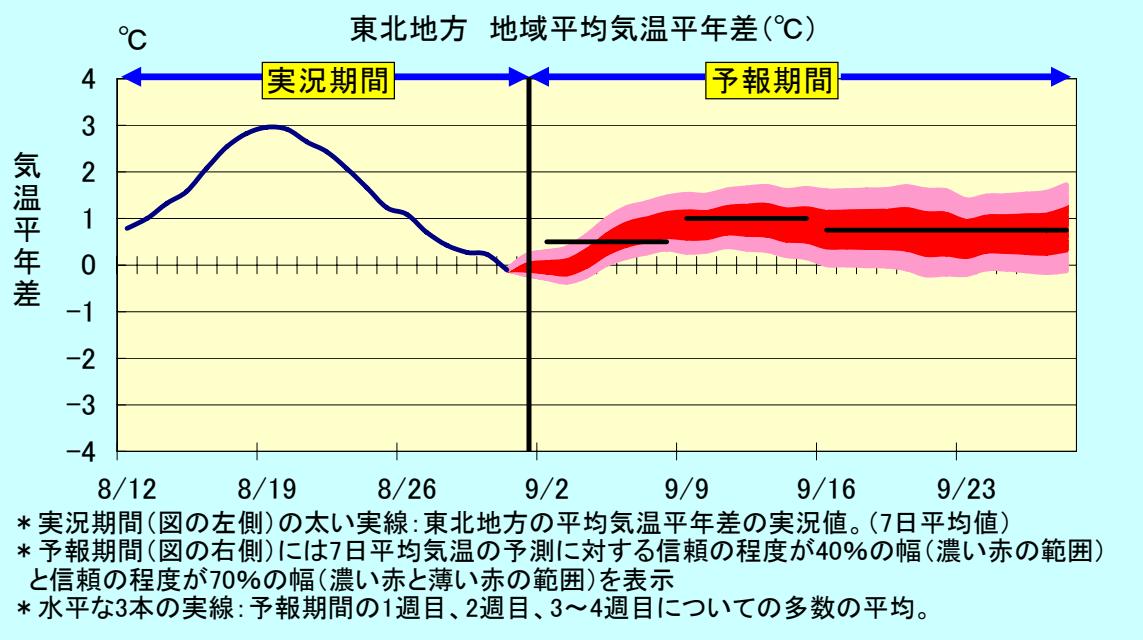
平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	13.2日	3.6日	3.0日	6.6日
東北太平洋側	12.1日	3.0日	2.6日	6.5日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「平年並」、2週目、3～4週目を「高い」と予測している。予報は、その他の資料から、1週目の東北日本海側を「高い」、東北太平洋側を「平年並か高い」とする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

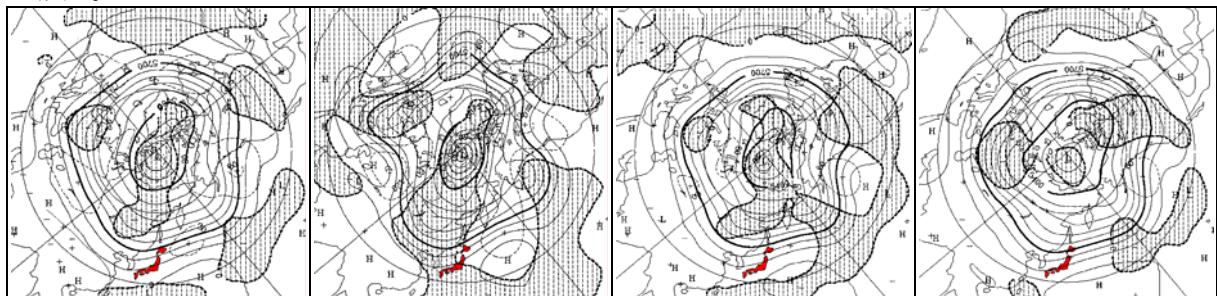


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近が負偏差で日本付近の中緯度帯は中国大陸まで正偏差。正偏差の中心は北海道の東方海上で西谷傾向。高圧部が日本の南東海上にあるが、日本の南海上は負偏差。

1週目は、東日本以西は極から続く負偏差。北日本はカムチャツカの東に中心を持つ正偏差域となる。2週目は、日本付近は中国大陆から東海上までの正偏差に覆われる。極からシベリア、日本の南海上は負偏差となる。3~4週目は、日本の南の高圧部が強く、日本付近の極東域は広く正偏差。



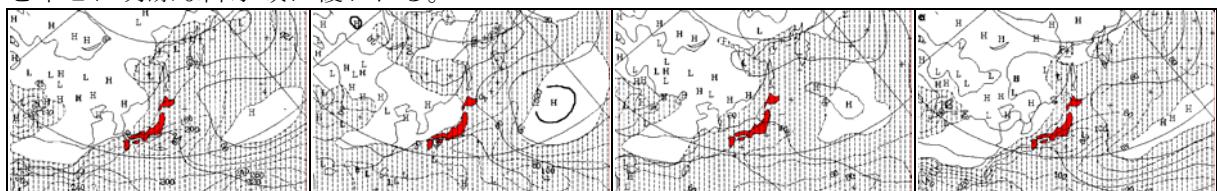
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3~4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、日本の南岸には降水域が帶状に広がり、その付近は弱い低圧部。東北地方にも降水域がかかる。

1週目は、太平洋高気圧が明瞭だが、降水域は日本の南岸から太平洋に伸び、台風の活動域を示唆。2週目は、太平洋高気圧は弱まるが、東北地方から沿海州にかけて帶状の高圧部。日本の南岸の降水域は東日本までかかる。3~4週目は、太平洋高気圧は強まるが、日本付近は太平洋岸を中心に明瞭な降水域に覆われる。



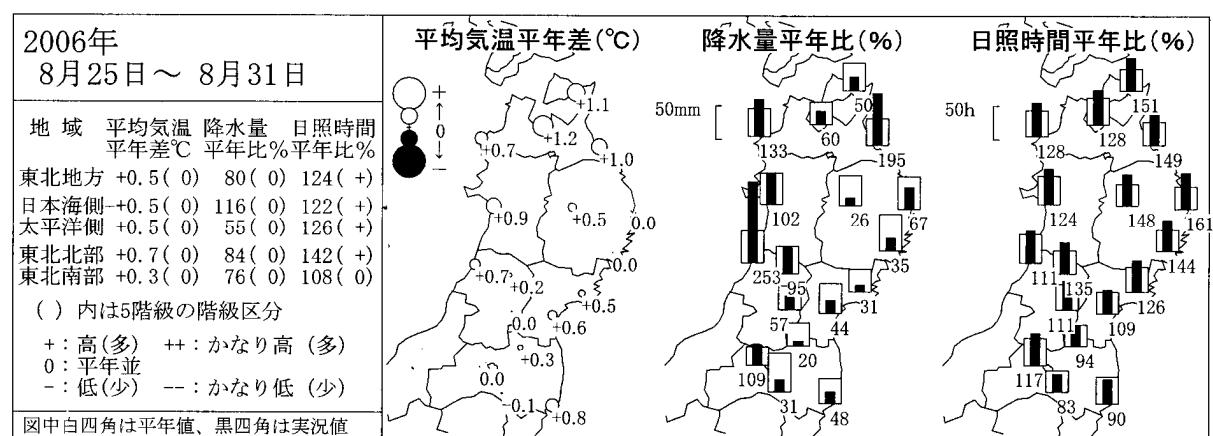
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3~4週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3~4週目 40mm 以上）

4. 最近1週間（8月25日～8月31日）の天候の経過

この期間、前半は移動性高気圧に覆われて晴れる所が多かったが、後半は寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨のところがあった。28日から29日には東北地方を低気圧が通過し、30日には寒気を伴った気圧の谷が通過したため大気の状態が不安定となって、ところどころで雷や強いにわか雨となり、床上浸水や停電、交通障害などが発生したところがあった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）